福島大学と国見町の相互友好協力協定

締結後握手を交わす太田久雄町長と福島大学中井勝己学長

9月17日、観月台文化センターにおいて、福島大学と国見町の相互友好協力協定の締結を行いました。

今回の締結の経緯は、昨年の6月に立ち上げた国見町の復興・再生プロジェクト「国見町活力あるまちづくり検討委員会」に、福島大学の岩崎由美子教授に副会長として参画いただき「1000年のまち。これから100年のまちづくり基本計画～里まち文化交流都市構想～」を策定したことをきっかけとしています。

また、今年度は、国見町が認定を目指している「歴史まちづくり計画」の策定に協力をいただく形で、大学院講座「地域特別研究Ⅰ」が菊地芳朗教授などの協力により開講されています。

今後も福島大学と国見町が連携を進めることで「人と人、人と知、地域と学生」の相互の協力が図られ、国見町の里まち文化交流都市構想の実現とグローバルな視野とセンスをもち、地域の諸課題を解決できる人材育成をめざす「地域と共に歩む」という、福島大学の人づくりに寄与できるものと考え、今回の締結になりました。

教育委員へ辞令

10月1日、観月台文化センターで町の教育委員の辞令が、太田久雄町長から志村裕美さん（高城）に交付されました。

志村さんは2期目で、任期は10月1日から平成30年9月30日になります。

あんぽ柿 全面加工再開

今年は町内全域で あんぽ柿の生産が可能となります。

町の特産品「あんぽ柿」は、原発事故の影響から2年間の加工自粛を経て、昨年度より一部の地域をモデル地区とした中で、加工再開を果たしました。

平成26年度は幼果期検査の結果から、町内全域を「加工再開モデル地区」とすることが決定され、全域での生産が可能となります。

(※)加工された「あんぽ柿」は昨年同様、全て非破壊検査機により放射性セシウム濃度を測定し、基準値以内の製品のみが市場に出荷されます。

様々な苦労を乗り越え、丹精込めて作られる「あんぽ柿」にご期待ください。

幼果期検査の受付の様子
（写真提供：JA 伊達みらい）

※町内全域を加工再開モデル地区としますが、幼果期検査において基準以上の放射性セシウム濃度を検出したほ場は加工自粛となります。

※加工再開モデル地区内にあっても原料柿の売買・移動はできません。

◆問い合わせ
産業振興課
☎585-2986
JA伊達みらい
国見営農センター
☎585-2660

国見の秋、召し上がれ！ トップセールスと地域間交流

町は9月から10月にかけて、国見の秋の実りを全国に発信するため、農産物のトップセールスと地域間交流を展開しました。

10月3日から4日にかけて、太田町長が訪れた岐阜県池田町では、岡崎和夫町長を表敬するとともに、当地で開催された「みの池田ふるさと祭」に参加しました。

会場では、「国見のくだものは、みんなおいしい」、「この日を楽しみに、待っていました」という言葉も聞かれ、心が温かくなりました。

また、9月19日から20日には、桃生産農家とミスピーチらが静岡県御前崎市を訪問。石原茂雄市長を表敬した後、道の駅「風のマルシェ御前崎」で桃の販売を行いました。道の駅のチラシを見てやってきたという国見町出身の人にも出会い、「おいしい」、「頑張って」と励まされながらの2日間でした。

池田町で桃をPRする太田町長とミスピーチ